

保証書

保証期間内に取扱説明書等の注意書きにしたがって正常な状態で使用し、故障した場合には、お買い上げの販売店に本書をご提示の上、修理をご依頼ください。

品名	エアコンプレッサ	型式	RC-1530PA
お買い上げ日※	年 月 日	保証期間	6ヶ月
お客様※	ご住所	〒	
	ご氏名	様	
	電話番号	- () -	
販売店※	住所名		
	電話番号		

※印欄に記入のない場合は、無効となりますので、必ずご確認ください。

1. 保証期間内でも次のような場合には有償修理になります。

- ①本書の提示がない場合。
- ②本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合。あるいは文字を書き替えられた場合。
- ③使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障及び損傷。
- ④お買い上げ後の落下、引越、輸送等による故障及び損傷。
- ⑤火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、公害や異常電圧による故障及び損傷。
- ⑥一般家庭用以外（例えば、業務用の長時間使用、車輛、船舶への搭載）に使用された場合の故障及び損傷。
- ⑦リサイクル業者や、使用者等による再販など、当社の責任範囲を超える場合。
- ⑧日本国外での使用。

2. 本書は、再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

3. 本書は、日本国内においてのみ有効です。

発売元 **株式会社パオック**
 〒955-0061 新潟県三条市林町2-5-21
 TEL:(0256)33-5574 FAX:(0256)33-5559
 URL <http://www.paock.co.jp>

E1098-Q2 21081000

PAOCK

エアコンプレッサ

AIR COMPRESSOR

型式 RC-1530PA

取扱説明書

この度はエアコンプレッサをお買い求めいただきありがとうございます。末長くご愛用いただくため、本取扱説明書をよくお読みいただき、必ず保管してください。

もくじ

●はじめに	2	●ご使用前に	12
・エアコンプレッサについて	2	・点検	12
・仕様	2	・準備	13
●設置場所について	3	・オイルの交換	15
・設置条件	3	・試運転	17
・オイルの飛散に関する注意	3	・ワンタッチカプラソケットの取り付け	18
●安全上のご注意	4	・エアツールの取り付け	19
・ご使用前 △警告	4	●使用する	20
・ご使用中 △警告	5	・運転手順	20
・ご使用中 △注意	6	・使用するにあたって	21
・ご使用后 △警告	6	●作業を終了させる	22
・ご使用后 △注意	6	・終了手順	22
●付属品の確認	7	●エアツールの接続例	24
●各部の名称	8	●故障かな？と思ったら	25
・主要各部の名称と機能	8	●保守と点検	26
・別売一覧表	9	・エアフィルタ（吸気口用）の点検	26
●安全装置について	10	・オイルの点検	26
・安全弁	10	・保管について	26
・アース	10	●エアツール適合表	27
・サーキットブレーカ	11		

発売元 **株式会社パオック**

外観、仕様などは製品改良のため、一部変更することがありますので、ご了承ください。



◎お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

はじめに P2
P6

各部の名称 P7
P9

ご使用前に P10
P19

使いかた P20
P21

終了する P22
P23

その他 P24
P27

はじめに

この度は **PAACK** エアコンプレッサをお買い求めいただきありがとうございます。いつまでも安全にお使いいただくため、ご使用前に本取扱説明書をよくお読みいただき、取扱上の注意事項、本機の特長、能力、使い方などを十分理解された上でご使用くださいますようお願い申し上げます。

エアコンプレッサについて

◆エアコンプレッサは、各種エアツールに動力源となる圧縮空気を供給するための、空気圧縮機です。市販のエアツールを接続することで、様々な用途に使用することができます。

例) 釘打ち、ステーブル止め、塗装、グリースガン、エアブラシ、空気入れ、汚れ落とし、噴霧作業等

◆本製品は、レシプロタイプです。内部のピストンがシリンダ内を上下することにより、圧縮空気が作られます。

※作業の際は、必ず使用工具などの必要圧力・空気量等をご確認の上、用途に応じてお使いください。

※圧縮された空気には、水分が発生したり、微量のオイルやホコリ等と一緒に吐出されることもあるため、電子部品等の清掃や乾燥には使用しないでください。塗装作業に使用する際は、別売のエアドライヤ等を併用し、オイルミストの除去を行ってください。

※用途以外のご使用は、重大な損害や事故の原因になりますので、絶対におやめください。

※品質改良のため、外観・仕様など一部変わることがありますので、ご了承ください。

仕様

型 式	RC-1530PA		タンク容量	30L
定 格 電 圧	AC100V		吐出口ねじ径	R1/4
定格消費電力	1,100W		作 動 音	約85dB (エアフィルタ取付時)
最高使用圧力	約0.8MPa		質 量	約27kg
再起動圧力	約0.6MPa		付 属 品 ・エアフィルタ……………1個 (吸気口用) ・ワンタッチカップソケット…1個 ・オイルキャップ……………1個 (本体取付済) ・パイプシール……………1個 (シールテープ) ・取扱説明書……………1部	
定格周波数	50Hz	60Hz		
流 量 (参考値)	0.0MPa時	115L/min		125L/min
	0.2MPa時	105L/min		115L/min
	0.4MPa時	85L/min		95L/min
	0.6MPa時	70L/min		80L/min
	0.8MPa時	50L/min	60L/min	

エアツール適合表

■エアツールの選定について

コンプレッサの能力よりもエアツールの空気消費量が多いと作業が順調にできなくなります。コンプレッサの能力が低い（流量が少ない）機種は、待ち時間（充填時間）が長くなります。タンク容量が小さければ、使用可能時間は短くなります。

下表を目安にエアツールを選定してください。

※この表は目安です。エアツールによってはこの表の通りにならないことがあります。※作業の際は、必ず使用するエアツールの使用圧力・空気消費量等をご確認の上、用途に応じてお使いください。

★大気圧換算：0.1MPa≒1気圧（大気圧）

エアコンプレッサ		RC-1530PA		
仕 様	最高使用圧力	約0.8MPa		
	再起動圧力	約0.6MPa		
	定格消費電力	1,100W		
	定格周波数	50Hz	60Hz	
	流 量 (※参考値)	0.0MPa時	115L/min	125L/min
		0.2MPa時	105L/min	115L/min
0.4MPa時		85L/min	95L/min	
0.6MPa時		70L/min	80L/min	
	0.8MPa時	50L/min	60L/min	
タンク容量		30L		
エアツール	空気消費量（目安）		使用判断	
エアインパクトレンチ（小型）	0.6MPa 約130L/min		◎	
エアドリル	0.6MPa 約140L/min		◎	
エアドライバ（強）	0.6MPa 約90L/min		◎	
エアハツリ	0.6MPa 約110L/min		◎	
エアカッター・エアニブラ	0.6MPa 約110L/min		◎	
エアグラインダ	0.6MPa 約85L/min		◎	
スプレーガン	0.4MPa 約70L/min		◎	
ブロワガン	0.4MPa 約60L/min		◎	
エアマイクログラインダ	0.6MPa 約30L/min		◎	
エアタッカ・フィニッシュネイラ	0.5MPa（単発使用）		◎	
エアグリソガン	0.6MPa（単発使用）		◎	
エアブラシ	0.2MPa 約20L/min		◎	
エアダスタ・エアプレッシャーゲージ	簡易清掃作業、タイヤ・ゴムボート等の空気入れ、空気圧調整など		◎	

◎：断続使用（最適）／△：断続使用（可）／×：使用困難

保守と点検

※本機の性能を維持するため、定期的に保守・点検を行ってください。

- エアフィルタ（吸気口用）の点検
- オイルの点検
- 保管について

保守と点検

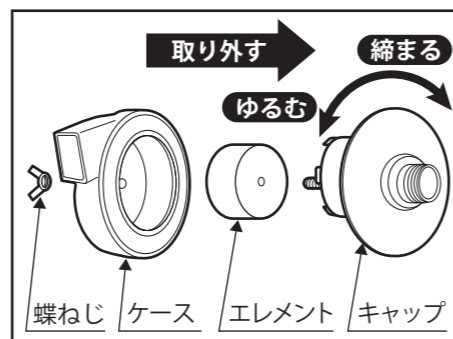
※各部名称、番号はP7～9をご参照ください。

■エアフィルタ（吸気口用）の点検

※点検の際は必ず電源スイッチをOFFにし、差し込みプラグを電源から抜いてください。

- ・エアフィルタ（吸気口用）は常に清潔にしてください。エアフィルタ（吸気口用）が汚れていると、空気量が減少し、エアコンプレッサの機能が低下します。
- ・エアフィルタ（吸気口用）が汚れている時は、以下の要領で洗浄してください。

- ①蝶ねじを外し、キャップを回してエアフィルタ（吸気口用）のキャップを外してください。（エアフィルタを破損しないようご注意ください。）
- ②中のエレメントを洗剤等で洗ってください。
- ③十分にすすいで乾燥させた後、再び取り付けて使用してください。

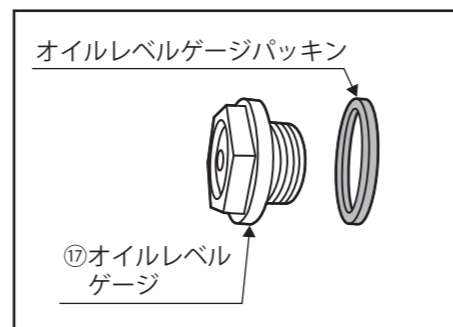


※汚れが著しい時は、新しいものに交換してください。

●主要各部の名称と機能 P9

■オイルの点検

- ・オイル量は、毎回、必ず使用前に確認してください。
- ・初回のオイル交換は、約50時間の運転、または、使用してから1ヶ月以内の交換をお勧めします。（使用頻度により異なります。）
- ・通常約200時間の運転、または約3ヶ月使用毎に新しいオイルに交換してください。
- ・点検時にオイルが汚れている場合は、早めに交換を行ってください。



●オイルの交換 P15・16

- ・オイルレベルゲージパッキンも定期的に点検してください。パッキンは、キャップの締め付けや、オイルに触れることにより劣化します。
- ・劣化したままのパッキンの使用は、オイル漏れ、エア漏れの原因になりますので、定期的に点検し、劣化している場合は、新しいものに交換してください。（オイルレベルゲージパッキンは、オイルレベルゲージとセットで別売しております。）

■保管について

- ・使用しない場合は、きちんと保管してください。乾燥した場所で、子どもの手の届かない所または、鍵のかかる所に保管してください。
- ・長期間で使用にならない場合は、保管前にドレンコックを全開にし、5分程度の運転を行ってください。

設置場所について

- 設置条件
- オイルの飛散に関する注意

設置条件

※各部の名称、番号はP7～9をご参照ください。

⚠ 警告

本機は、下記の条件を満たした場所に設置して使用ください。指定以外の場所への設置は、火災や事故、けが、周囲への物的損害、本機故障などの原因となります。

- 可燃性の液体や、ガスなどが近くにない、空気が清浄な場所
本機は周囲の空気を本体内に取り込み、圧縮します。揮発した可燃性の液体やガスを取り込むと、爆発の危険があります。
- ゴミやホコリが少ない場所
ゴミやホコリを本体内に吸い込み、過熱事故や異常磨耗の原因となります。
- 乾燥した場所
雨の中や、湿った、または濡れた場所での使用は、感電事故の原因となります。
- 塀や壁面から30～40cm以上離れた、密閉されていない、風通しの良い場所
風通しの悪い場所や密閉された空間（車内や箱の中など）での使用は、過熱事故の原因となります。
- 長時間の直射日光を避けた、高温にならない場所
高温になる場所での使用は、エアタンク内の圧縮空気がさらに高圧になり、破裂の恐れがあります。
- 地面が堅く平らな場所
不安定な場所に設置すると、本機が移動や落下、転倒して事故の原因となります。
- 明るく、きれいな場所
暗かったり、散らかった所での作業は事故の原因になります。
- 必要に応じて、騒音対策がされた場所
騒音に関しては、法令や各都道府県などの条例で定める規則があります。周囲の迷惑にならないよう、規制値以下でご使用になることが必要です。必要に応じて、遮音壁を設けて作業を行ってください。

オイルの飛散に関する注意

本製品は構造上、使用中に

オイルなどの油分が飛散する場合があります。

- 汚れが付着してはいけない場所・服装での使用は、おやめください。
少量のオイルが飛散する場合があります。使用する場所・服装にご注意ください。

安全上のご注意

安全作業上、事故を未然に防ぐため、次に述べる注意事項をよくお読みの上、指示に従ってください。

本取扱説明書の注意事項は、「△警告」、「△注意」に区分されています。



警告

この表示は取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容を表しています。



注意

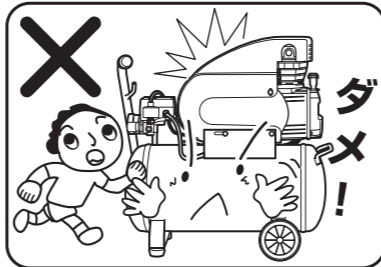
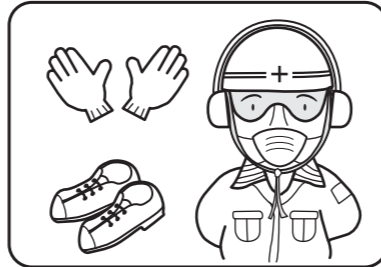
この表示は取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合、および物的損害の発生が想定される内容を表しています。
なお、△注意に記載した事項でも状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも安全に関する重大な内容を記載しておりますので必ず遵守してください。

ご使用前



警告

- ご使用前に取扱説明書を必ずよくお読みいただき、使い方を十分理解してください。
- 作業はきちんとした服装で行ってください。
 - 作業環境に応じて、ヘルメット、保護メガネ、耳あて、防じんマスク、手袋、安全靴等の保護具を着用してください。
- 各部のボルトやねじにゆるみがないことを確認してください。
 - 故障や事故の原因になります。
- 使用電源は必ず銘板に表示してある電圧（単相交流100V）でご使用ください。
 - 故障や発火、発熱、焼損、性能低下の原因になります。
- 他の器具と電源を併用しないでください。
 - 定格15A以上の電源を単独で使用してください。他の器具と併用すると、ブレーカが落ちる、作動しないなどの異常及び高熱が発生し、故障の原因になります。
- 子どもを近づけないでください。
 - 作業員以外、エアコンプレッサやコードに触れさせないでください。
 - 作業員以外、作業場へ近づけないでください。
- 必ずアースを接続してください。 **P10**
 - 故障や漏電の時、感電の原因になります。
 - アース棒やアース板を地中に埋め込み、アース線を接続する電気工事は、電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店へ依頼してください。
- アース線を水道管やガス管に接続しないでください。
 - 破損や引火の危険があります。
- 本機は大切に取り扱いってください。
 - 転倒や落下により、エアタンクに亀裂が入るなど、破損する恐れがあります。



故障かな？と思ったら

●次のチェックリストに沿って点検を行ってください。

症状	原因	解決方法
エアコンプレッサが作動しない。	①差し込みプラグが外れている。	①差し込みプラグを正しく電源に差し込んでください。
	②サーキットブレーカが働いている。	②モータが十分冷えた後、リセットボタンを押してください。 P11
	③延長コードを使用している。	③電圧が下がっていることが考えられます。延長コードの使用をやめ、直接電源に接続してください。※電源が離れていて、延長コードが必要な時は、太さ2.0mm ² 以上で長さ10m以内のものをご使用ください。※延長コードは必ず伸ばした状態でご使用ください。※延長コードを使って他の機器との同時使用はできません。
	④他の器具と電源を併用している。	④電圧が下がっていることが考えられます。15A以上の電源を単独で使用してください。
圧力が上がらない、圧力が低い。	①各ねじ部のゆるみによるエア漏れ。	①各ねじ部を締め付けてください。
	②各ねじ部にパイプシール（シールテープ）を巻いていない。	②各ねじ部にパイプシール（シールテープ）を巻いてください。 P18
	③エアフィルタ（吸気口用）が汚れている。	③エアフィルタ（吸気口用）を清掃してください。汚れが著しい時は、新しいものに交換してください。（別売もございます。） P9・26
	④エアタンク内に水が溜まっている。	④ドレンコックよりエアタンク内の水を抜いてください。 P23
	⑤安全弁からの空気漏れ。	⑤安全弁の交換が必要です。お買い求めの販売店または発売元にご連絡ください。 P10
	⑥オイル量の不足。	⑥定期的にオイル量を点検し、不足時は補充してください。 P16・26
圧縮空気にオイルを含んでいる。	①間違えた粘度のオイルを使用している。	①SHELL エンジンオイル 5W-30をお勧めします。市販のコンプレッサオイル（粘度ISOVG68相当）の非溶剤性油もご使用になれます。
	②オイルの量が多すぎる。	②オイルを適量まで抜いてください。 P15・16

ご購入後、初めてご使用になられる時

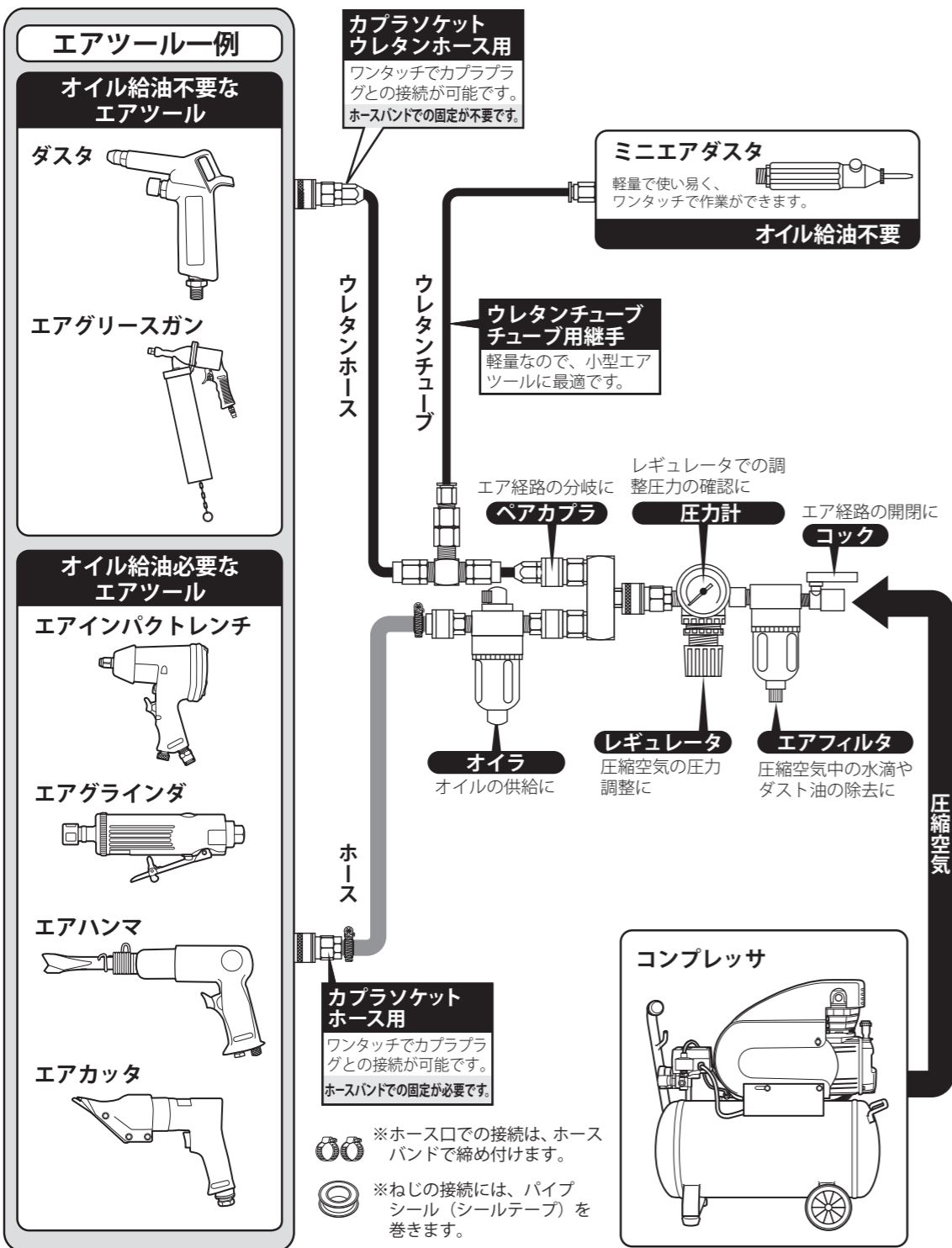
・スイッチをONにしても、作業がスムーズに行かない場合、また、それに伴い、サーキットブレーカが作動する場合がございます。以下のことをご確認ください。

原因	解決方法
①延長コードによる電圧低下。	①電圧が下がっていることが考えられます。延長コードの使用をやめ、直接電源に接続してください。※電源が離れていて、延長コードが必要な時は、太さ2.0mm ² 以上で長さ10m以内のものをご使用ください。※電源が離れている場合は、長いエアホースを使用して作業を行うことをお勧めします。※延長コードは必ず伸ばした状態でご使用ください。※延長コードを使って他の機器との同時使用はできません。
②オイルが足りない。	②オイルを適量まで注入してください。※オイルを適量まで注入しないと故障の原因になります。 P16
③寒冷地での使用。	③周囲の温度が10度以上の場所で、本体の温度ならしを行ってください。

※これらのチェックを行っても正常に作動しない場合や、不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または発売元までご連絡ください。お問い合わせや、ご連絡がないまま直接発売元に修理品などを送付されても、処理、対応ができない場合がありますので、ご了承ください。

エアツールの接続例

※エアツールにはいろいろな種類の工具があります。それと共に、コンプレッサ用のさまざまなエアパーツ（ホース・継手など）がございますので、お買い求めの際は接続径をご確認ください。



ご使用前

警告

10. 本機の上に座ったり、重量物を載せたりしないでください。

- ・破損や亀裂、変形の原因になります。

11. 電源コードは乱暴に扱わないでください。

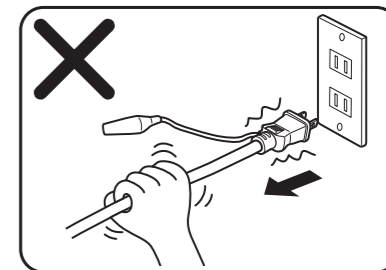
- ・電源コードを引っ張ってエアコンプレッサを移動させたり、電源コードを引っ張って電源から抜いたりすると、電源コードを傷め、断線・短絡（ショート）の原因になります。
- ・電源コードを熱、油、角のとがった所に近づけないでください。電源コード損傷の原因になります。

12. 電源コードや差し込みプラグは定期的に点検してください。

- ・電源コードや差し込みプラグが損傷している場合は、すぐに交換が必要です。お買い求めの販売店または発売元までご連絡ください。
- ・電源コードや差し込みプラグが傷んだまま使用すると、やけど・感電・火災などの原因となります。

13. 不意な始動は避けてください。

- ・差し込みプラグを電源に差し込む前に、スイッチがOFFになっていること、及びエアホースが接続されていないことを確認してください。



ご使用中

警告

1. 感電に注意してください。

- ・エアコンプレッサを使用中、身体をアースされているものに接触させないようにしてください。（例えば、パイプ、暖房器具、電子レンジ、冷蔵庫などの外枠）

2. 空気の圧縮のみに使用してください。

- ・空気以外のガス（プロパン、アセチレン、酸素など）を吸入すると爆発する恐れがあります。

3. 人体等の呼吸用には使用しないでください。

- ・エアコンプレッサから吐出される空気は、人体等には絶対使用しないでください。

4. エアホースを接続する前に、エアホースとエアプラグが完全に固定されていることを確認してください。

- ・固定が不完全だと、外れて事故の原因になります。

5. 開口部や、ファン部に異物を入れたり、近づけたりしないでください。

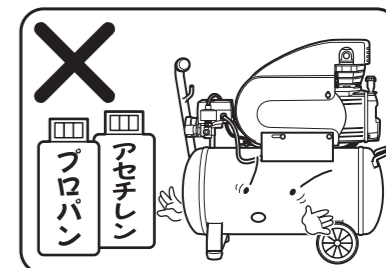
- ・巻き込みなどにより故障や事故の原因になります。

6. エア工具は、必ず使用空気圧力の範囲内で使用してください。

- ・製品の寿命を早めたり、故障や事故の原因になります。

7. 運転時、運転直後の金属部は絶対に素手で触らないでください。

- ・空気の圧縮熱で高温になっています。やけどの恐れがありますので、移動などは熱が下がってから行ってください。



安全上のご注意

ご使用中



注意

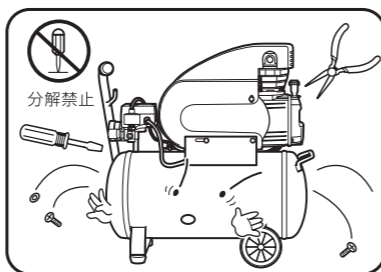
1. 本機の運転中に異常音が発生したり、安全弁の作動によるタンク内圧力の低下がみられた場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店または発売元までご連絡ください。

ご使用後



警告

1. 電源スイッチをOFFにした後、差し込みプラグを電源から抜いてください。
2. エアコック、ドレンコックをゆっくりゆるめ、エアタンク内の圧縮空気とドレン(水)を全て抜いてください。
 - ・ドレンを抜かないと、エアタンクを傷める恐れがあります。
3. 圧縮空気とドレンを抜く場合は、顔をエアコック及びドレンコック付近に近づけないでください。
 - ・圧縮空気やドレンの排出によって失明や耳を傷める恐れがあります。
4. エアタンク内の圧縮空気が全て抜けてから、エアホースを外してください。
 - ・タンク内に圧縮空気が残ったままエアホースを外すと、カプラプラグが跳ね、けがや事故の原因になります。
5. 本機を分解、改造しないでください。
 - ・事故やけが、故障の原因になります。
6. 損傷した部品がないか点検してください。



ご使用後



注意

1. エアコンプレッサは、大切に手入れをしてください。
 - ・運搬時の落下防止のため、グリップは常に乾かして、きれいな状態に保ち、油やグリスがつかないようにしてください。
2. 環境保全のため、排出ドレンはきちんと管理してください。
 - ・エアタンク内・エアフィルタ(吐出口用)内の排出ドレンは、トレイに受けて排出するよう管理してください。
3. 使用しない場合は、きちんと保管してください。
 - ・乾燥した場所で、子どもの手の届かない所、または鍵のかかる所に保管してください。
 - ・落下の恐れがある所は避けてください。
 - ・長期間で使用にならない場合は、保管前にドレンコックを全開にし、5分程度の運転を行ってください。

作業終了後は、毎回必ずエアタンク内の圧縮空気とドレン(水)を全て抜いてください。ドレンを抜かないと、エアタンク内にサビが発生し、エアコンプレッサの寿命を縮める原因となります。

■エアタンク内のドレン(水)を抜く

終了手順

※各部の名称、番号はP7～9をご参照ください。

■エアタンク内のドレン(水)を抜く

エアタンクの下部に付いているドレンコックのレバーを、ゆっくりと下へ回して開き、ドレンを抜いてください。

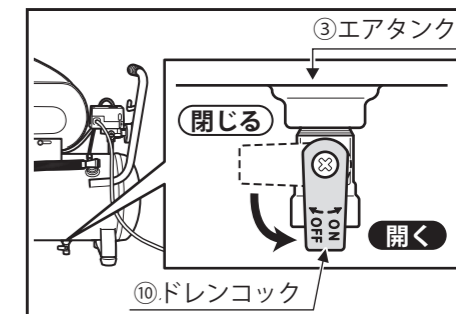
※ドレンを抜く際は、サビが混ざった水が出ますのでドレンコックの下にトレイなどを置いてください。

⚠警告

- ・必ずドレンを抜く前にエアタンク内のエアは全て使い切ってください。
エアが入っている状態でドレンを抜くと、事故やけがの恐れがあります。
- ・使用後は毎回必ずドレンを排出してください。
ドレン抜きを行わないと、エアタンク内に水が溜まり、それが圧縮空気と一緒にエアホースを通してエアツールに運ばれ、故障や錆の原因になります。
- ・ドレンを抜く場合は、顔をドレンコックに近づけないでください。
タンク内の残圧やドレンの排出によって失明や耳を傷める恐れがあります。

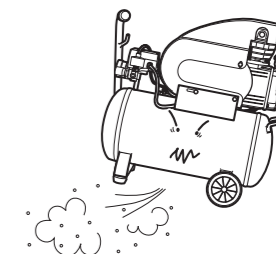
⚠注意

エアコックから圧縮空気を抜く場合は、空気吐出口にワンタッチカプラソケットが付いていないかご確認ください。
ワンタッチカプラソケットが付いていると、エアコックを開いても圧縮空気は出てきません。その場合は、ワンタッチカプラソケットを外してからエアコックより圧縮空気を抜いてください。



⚠警告

ドレンコックはゆっくりと回してください。一度に回すと、タンク内の残圧が噴き出し、事故やけがの恐れがあります。



作業を終了させる

- 終了手順
- エアホースを抜く

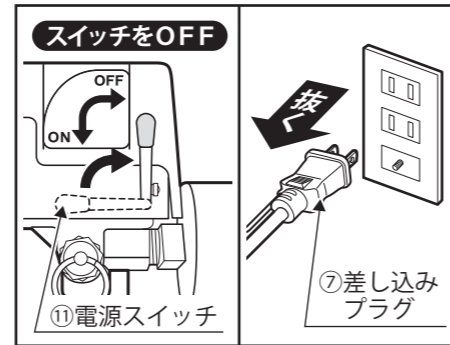
終了手順

※各部の名称、番号はP 7～9をご参照ください。

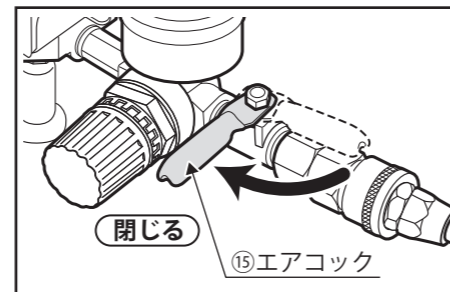
■終了手順

※作業終了後、必ずエアタンク内の圧縮空気は全て使い切ってください。

- ①電源スイッチをOFFにし、差し込みプラグを電源から抜いてください。



- ②エアタンク内の圧縮空気を全て使い切り、エアコックを閉じてください。

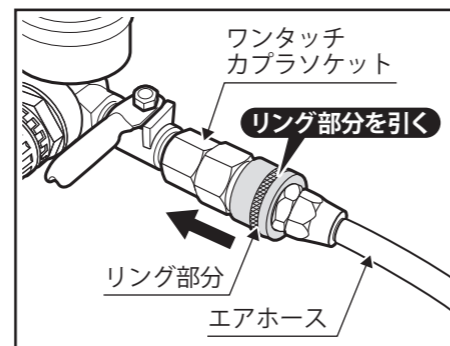


■エアホースを抜く

ワンタッチカプラソケットのリング部分を引き、付属品のエアホースを抜いてください。

⚠警告

エアホース内に残圧が残っていると圧縮空気のでエアホースが跳ね、けがや事故の恐れがあります。



付属品の確認

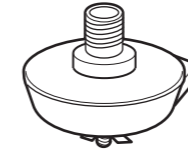
■付属品の確認

確認

※各部の名称、番号はP 7～9をご参照ください。

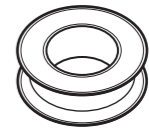
■付属品の確認

開梱後、下記の物が揃っているか確認してください。



エアフィルタ(吸気口用)・・・1個

エアコンプレッサの中に空気を取り込む際に、空気中のゴミなどを削減します。



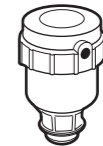
パイプシール(シールテープ)・・・1個

エアコンプレッサのねじ部に巻き、エア漏れを防ぎます。



ワンタッチカプラソケット・・・1個

エアコンプレッサの空気吐出口と、市販のエアホースを接続します。



オイルキャップ・・・・・・・・・・1個

オイル注入口用のキャップです。(本体取付済)



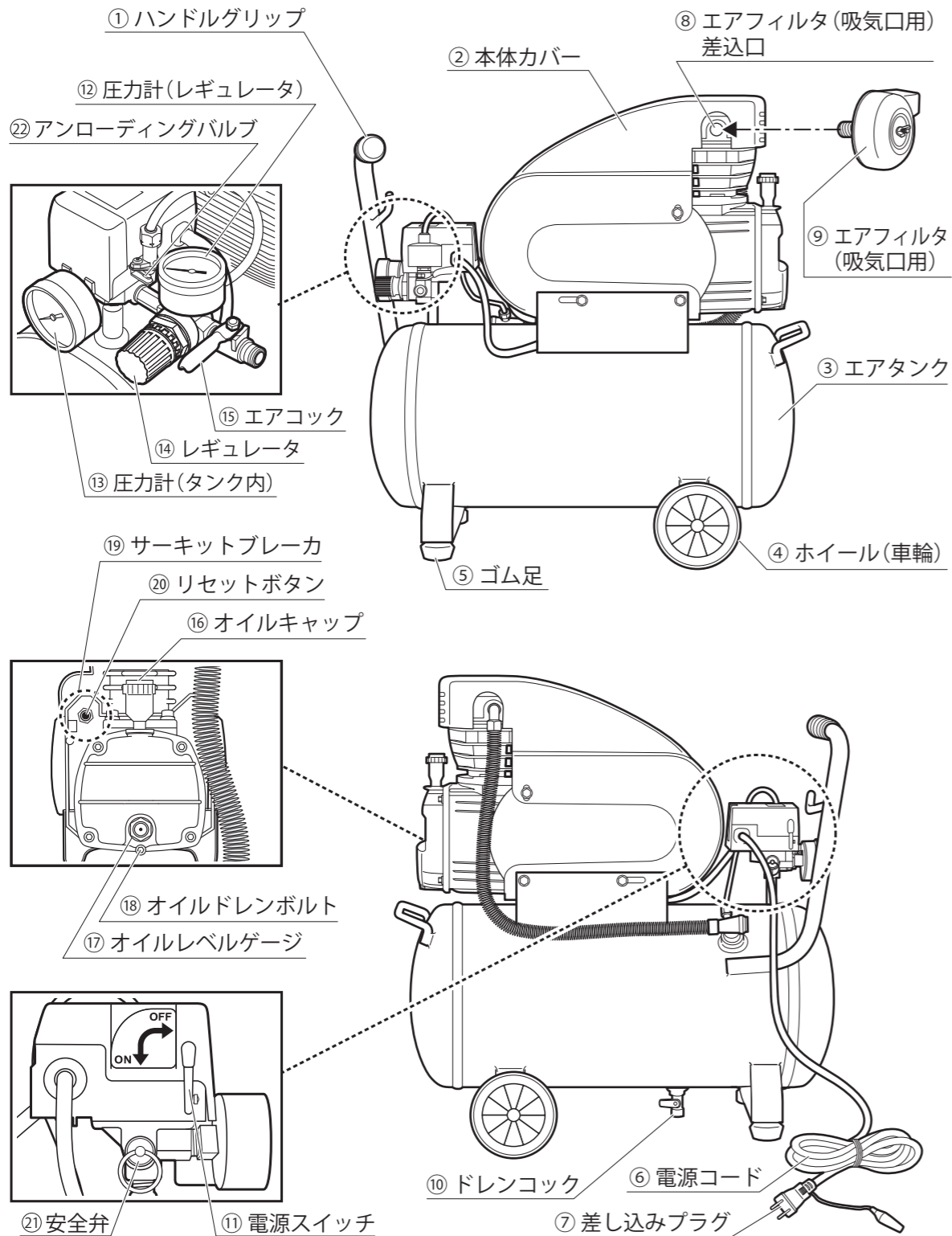
取扱説明書・・・・・・・・・・1部

この冊子です。

※付属品が不足している場合は販売店または発売元までご連絡ください。

各部の名称

■主要各部の名称と機能



- 2つの圧力計について
- 吐出圧力の調整

使用するにあたって

※各部の名称、番号はP7~9をご参照ください。

■ 2つの圧力計について

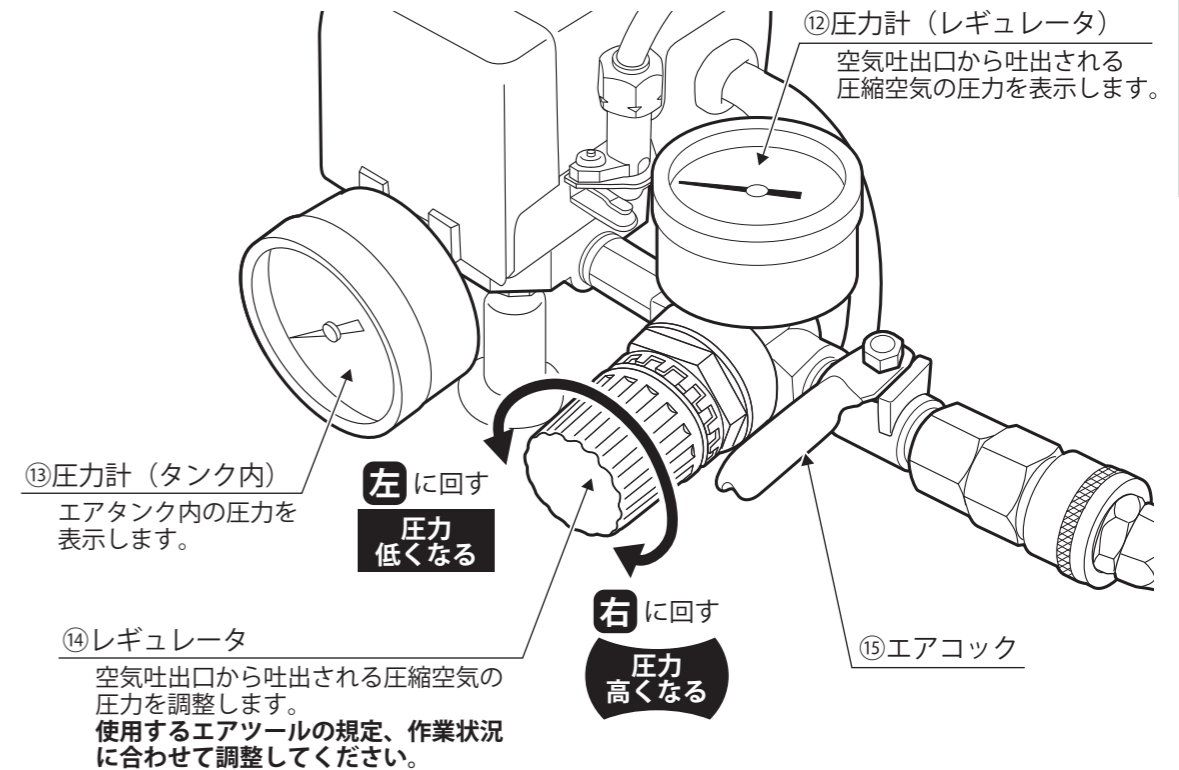
圧力計は『タンク内』用と、『レギュレータ』用の2つあります。下図を参考に、作業の目安としてください。

■ 吐出圧力の調整

レギュレータは、吐出される圧縮空気の圧力を調整します。エアツールにはいろいろな種類がありますので、必ず使用するエアツールに応じ、指定された使用空気圧力の範囲内でご使用ください。

- ① エアコックが閉じていることを確認してください。
- ② 圧力計(レギュレータ)を確認しながらレギュレータを回し、吐出圧力の調整を行ってください。

- ◎ レギュレータを右に回す…吐出圧力が高くなる
- ◎ レギュレータを左に回す…吐出圧力が低くなる



使用する

■エアタンク内に圧縮空気を溜める

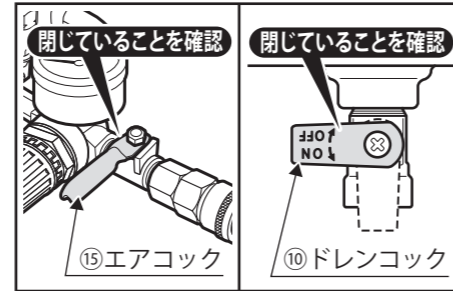
運転手順

※各部の名称、番号はP7～9をご参照ください。

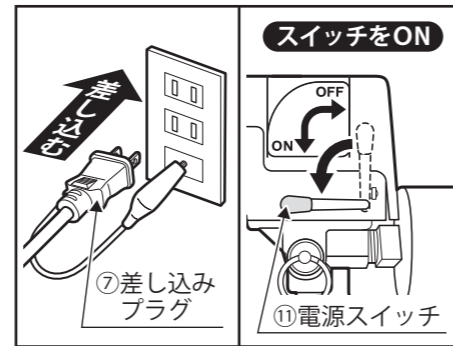
■エアタンク内に圧縮空気を溜める

エアツールの取り付けが完了したら、圧縮空気をエアタンク内に溜めます。

①エアコックとドレンコックが閉じていることを確認してください。



②差し込みプラグを電源に差し込み、電源スイッチをONにしてください。
約3分後、タンク内の圧縮空気が約0.8MPaになると、自動的にモータが止まります。



※これで全ての点検と準備ができました。
次はエアコックを開いて作業開始です。

■主要各部の名称と機能

	名称	機能
①	ハンドルグリップ	本体を移動させる際に使用します。
②	本体カバー	モータ部のカバーです。
③	エアタンク	圧縮空気を貯蔵するタンクです。
★④	ホイール(車輪)	本体を移動させる際に使用します。
★⑤	ゴム足	本体保持用のゴム足です。
⑥	電源コード	電源コードです。
⑦	差し込みプラグ	家庭用電源AC100Vへ接続するための、差し込みプラグです。
⑧	エアフィルタ(吸気口用)差込口	エアフィルタ(吸気口用)を取り付ける差込口です。
★⑨	エアフィルタ(吸気口用)	コンプレッサ内部に吸入される空気を、ろ過します。 ※取り付ける際は、パイプシール(シールテープ)は使用しないでください。
★⑩	ドレンコック	タンク内に溜まるドレン(空気圧縮時に生成される水)を外へ排出します。
⑪	電源スイッチ	モータ電源のON/OFF操作をします。(ON…水平、OFF…垂直)
★⑫	圧力計(レギュレータ)	空気吐出口から吐出される圧縮空気の圧力を表示します。
★⑬	圧力計(タンク内)	エアタンク内の圧力を表示します。
★⑭	レギュレータ	吐出される圧縮空気の圧力を調整します。
★⑮	エアコック	開くと圧縮空気が吐出され、閉じると吐出が止まります。
★⑯	オイルキャップ	オイル注入口のキャップです。
★⑰	オイルレベルゲージ	オイルの量を表示します。
⑱	オイルドレンボルト	オイルを抜く際に使用します。
⑲	サーキットブレーカ	モータに無理がかかるとリセットボタンが飛び出し、本機は停止します。
⑳	リセットボタン	サーキットブレーカの作動・再起動を行います。
㉑	安全弁	タンク内が異常高圧になった場合に作動し、タンク内の圧縮空気を外へ排出します。
㉒	アンローディングバルブ	起動時・停止時にシリンダ内の残圧を自動的に抜き、モータへの負荷を軽減します。

※★印部品については、部品として別売もごございます。
販売店または発売元までご連絡ください。

■部品別売表

部品名	品番	入数	部品名	品番	入数
④ ホイール	WH-150RC	1	⑬ 圧力計・タンク内	AT-0.8	1
⑤ ゴム足	GF-RC	1	⑭ レギュレータ	RE-RC	1
⑨ エアフィルタ	AF-1/2RC	1	⑮ エアコック	AC-01	1
⑩ ドレンコック	DC-1/4B	1	⑯ オイルキャップ	OC-RE3/8	1
⑫ 圧力計・レギュレータ	AR-0.8	1	⑰ オイルレベルゲージ	W22	1

安全装置について

※本機には、安全を確保するため、次のような保護装置がついています。

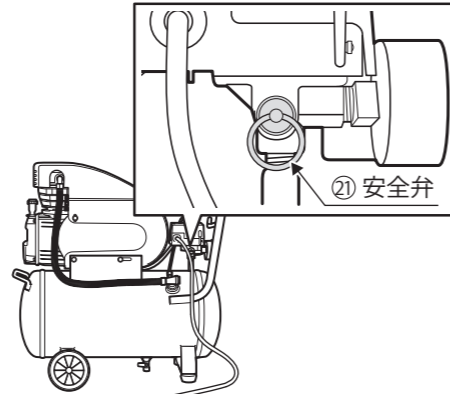
- 安全弁
- アース

確認

※各部の名称、番号はP7～9をご参照ください。

■安全弁 タンク内が異常高圧になった場合に作動し、タンク内圧を下げます。

本機は圧力スイッチにより、タンク内圧力が最高圧力まで達すると、自動的にモータの運転を停止します。圧力スイッチの故障などにより、タンク内が異常高圧になった場合、安全弁が作動し、タンク内圧力を減圧します。この場合は、直ちに使用を中止し、お買い求めの販売店または発売元までご連絡ください。



⚠警告

安全弁はエアコンプレッサを安全にご使用いただくために取り付けられていますので、絶対に外さないでください。

◎定期的に作動確認を行ってください。

運転状態で安全弁のリングを引いて、圧縮空気が排出されることを確認してください。弁の動きがスムーズでない場合や、圧縮空気が排出されない場合は修理が必要です。お買い求めの販売店、または発売元にご連絡ください。

⚠警告 安全弁を引くと、高圧の圧縮空気が排出されます。

- ・安全弁の確認の際は、安全弁の付近に顔を近づけないでください。圧縮空気の排出によって、失明や耳を傷める恐れがあります。
- ・安全弁は過度に引かず、圧縮空気が排出されることを確認したらすぐに放してください。

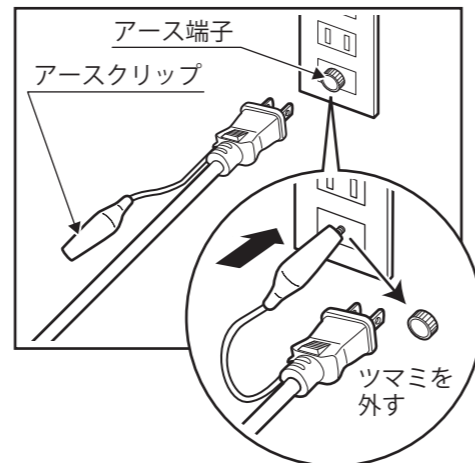
■アース 本機の故障や漏電の際に電流を外へ逃がし、感電事故を防止します。

アースは、本機に異常な電流が流れ込んだり、本機から電流が漏れる等の故障が起きた際に、電流を外へ逃がします。作業の前に、感電事故防止のため、必ずアースクリップを接地（アース）してください。

- アース端子のツマミを外して、アースクリップを接地（アース）してください。

⚠注意

アース端子がない場合、アース棒やアース板を地中に埋め込みアース線を接続する電気工事が必要です。この工事は、電気工事士の資格が必要ですので、お近くの電気工事店へ依頼してください。



- 市販のエアホースを取り付ける
- 市販のエアツールを取り付ける

エアツールの取り付け

※各部の名称、番号はP7～9をご参照ください。

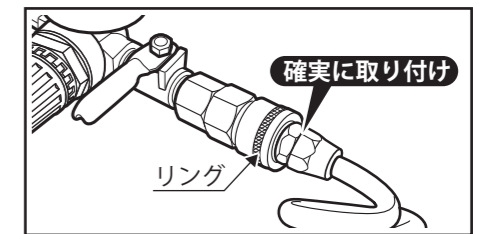
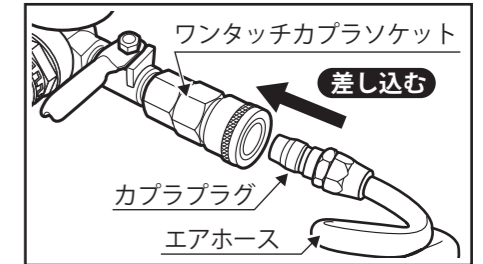
■市販のエアホースを取り付ける

ワンタッチカプラソケットにエアホースのカプラプラグを取り付けます。

- ①エアコックを閉じてください。
- ②カプラプラグをワンタッチカプラソケットへ差し込んでください。しっかりと奥まで差し込み、ワンタッチカプラソケットのリング部分が手前へ出たら、接続完了です。

⚠注意

エアホースのカプラプラグは、確実にワンタッチカプラソケットへ接続してください。接続が完全でないと、事故やけがの恐れがあります。



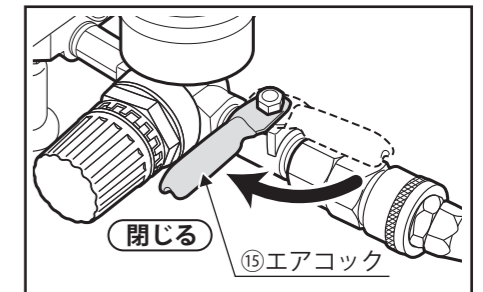
■市販のエアツールを取り付ける

- ①エアコックを閉じてください。
- ②エアホースのカプラソケットにエアダスタなどのエアツールを取り付けます。

⚠注意

取り付けに際しては、取り付けるエアツールの取扱説明書の表記に従い、正しく取り付けを行ってください。

●エアツール適合表 P27



■付属品のワンタッチカプラソケットを取り付ける

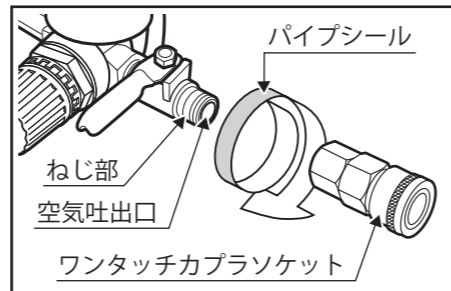
ワンタッチカプラソケットの取り付け

各部の名称、番号はP7～9をご参照ください。

ワンタッチカプラソケットを取り付ける際は、エアタンクの中に圧縮空気が入っていないことを確認し、エアコックを閉じて作業を行ってください。

■付属品のワンタッチカプラソケットを取り付ける

- ①付属品のパイプシール(シールテープ)をエアコックの空気吐出口のねじ部に巻き付けます。パイプシール(シールテープ)は、ずれないように巻き始めを押さえ、ねじ部の奥から手前に向けて右回りに巻き付けます。ねじ山に食い込むよう引っ張りながら巻き付けてください。巻き終わりは強く引っ張り、ちぎって端を巻き付けてください。

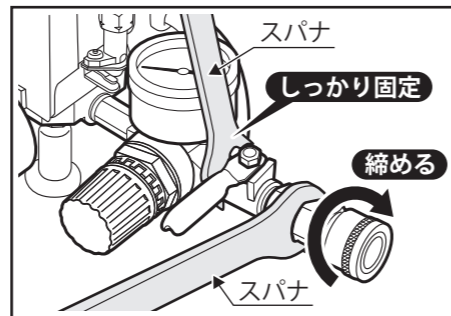


- 矢印の方向に巻くこと。
- 空気吐出口にパイプシール(シールテープ)がかからないよう、注意すること。

⚠注意

パイプシール(シールテープ)がないと、エア漏れの原因となりますので、必ずパイプシール(シールテープ)を空気吐出口のねじ部に巻いてから取り付けを行ってください。また、エアコックの空気吐出口にパイプシール(シールテープ)がかからないよう、注意して取り付けてください。

- ②付属品のワンタッチカプラソケットを、空気吐出口にスパナで取り付けます。エアコック側も別のスパナで固定し、しっかりと取り付けてください。



便利!

市販のエアフィルタを、空気吐出口に取り付けることで、圧縮空気中のゴミ・水分・オイルミストを削減することができます。

※本機には、安全を確保するため、次のような保護装置がついています。

■サーキットブレーカ

確認

※各部の名称、番号はP7～9をご参照ください。

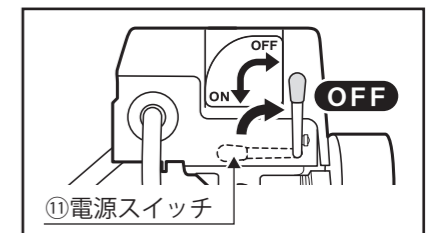
■サーキットブレーカ

モータに無理がかかって過負荷電流となった場合に作動し、運転を停止させます。

本機にはサーキットブレーカ(過負荷保護装置)が内蔵されており、モータに無理がかかり、過負荷電流が生じた際に、運転を停止させます。運転が停止した場合は、下記の手順に従って再起動してください。

①電源をOFFにする

電源スイッチをOFFにしてください。



②原因の確認

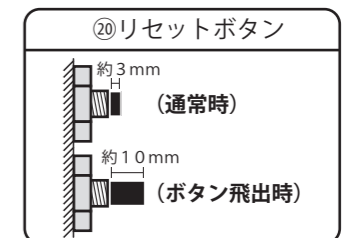
サーキットブレーカが作動した原因を確認してください。

- 延長コードを使用している・または他の機器と電源を共有していませんか? **P25**
- エアタンク内に水が溜まっていませんか? **P23**
- 作業場の温度が高すぎる・または壁面に近すぎる場所に設置していませんか? **P3**

上記の状態である場合は、その原因を取り除いてください。原因が上記に無い場合は、お買い求めの販売店または発売元までご連絡ください。

③サーキットブレーカの再起動

電源スイッチをOFFにしてから、5分程度待ち、モータが十分に冷えたことを確認してからリセットボタンを押してください。

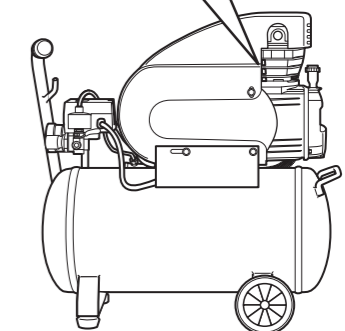
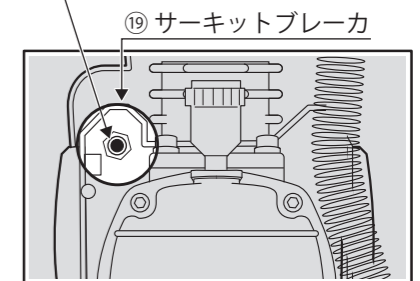


④エアコンプレッサの始動

電源スイッチをONにしてください。

- タンク内圧力が約0.6MPa未満の場合は、すぐに始動します。
- タンク内圧力が約0.6MPa以上の場合は、電源スイッチをONにしても始動しません。エアコックをゆるめて、約0.6MPa未満になるまで圧縮空気を抜いてください。エアコンプレッサが始動します。

●圧縮空気の抜き方 **P13**



ご使用前に

※「設置場所について」(P3)と「安全上のご注意」(P4～6)をよくお読みの上、作業を行ってください。

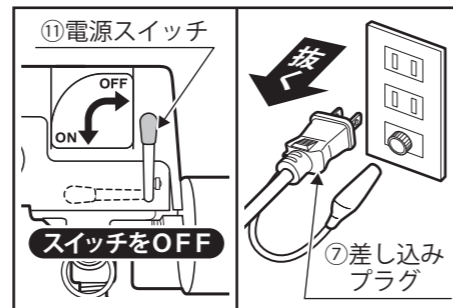
- 電源スイッチ・差し込みプラグの確認
- 本体の点検

点検

※各部の名称、番号はP7～9をご参照ください。

■電源スイッチ・差し込みプラグの確認

準備中の急な始動を避けるため、電源スイッチがOFFになっていること、差し込みプラグが電源に差し込まれていないことを確認してください。



■本体の点検

①タンクに亀裂・サビがないか確認

亀裂やサビは、事故・故障の原因となります。作業前に必ず、タンクにひびや亀裂、サビなどがいないか確認してください。

②各部のボルト・ナットの締め付け点検

事故や故障の原因となりますので、各部のボルト・ナットやねじにゆるみがないか確認してください。

※電源を入れてモータの起動状況を確認してみましょう。

- 慣らし運転（必ず行ってください。）
- 再起動の確認

試運転

※各部の名称、番号はP7～9をご参照ください。

⚠ 毎使用前に必ず行ってください

オイルの量を確認／適量まで注入または交換 **P15・16**

■慣らし運転（必ず行ってください。）

- ①エアコックを全開にし、差し込みプラグを電源（AC100V）に差し込み、電源スイッチをONに入れます。

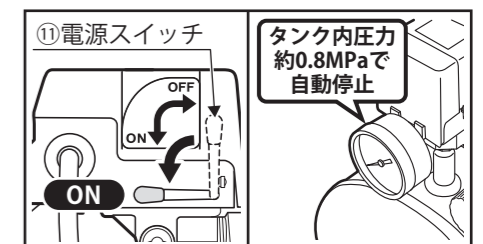
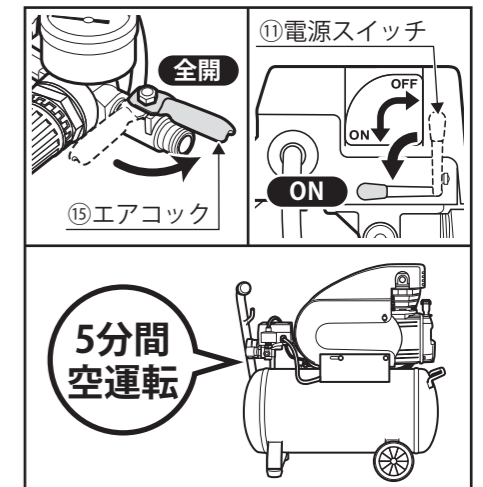
⚠ 警告

・定格15A以上の電源を単独で使用してください。他の器具と併用すると、ブレーカが落ちる、作動しないなどの異常及び高発熱となり、故障の原因になります。

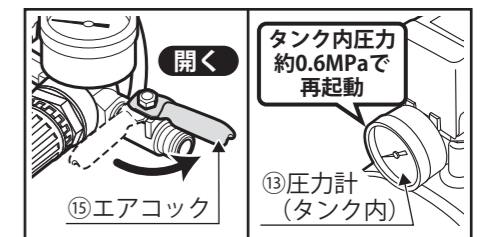
- ②この状態で5分程度、空運転を行ってください。ピストン、クランク軸等金属部分の摺動面をなじませ、オイルの給油を行うためです。
- ③上記作業を行った後、電源スイッチをOFFにし、圧縮空気を全部排出してからエアコックを閉じてください。

■再起動の確認

- ①電源スイッチをONにしてください。モータが作動し、エアタンク内に圧縮空気が送られます。（この時、異常な音や振動が無いことを確認してください。）
- ②約3分後、タンク内の圧力が約0.8MPaになると、自動的にモータが止まります。（図1）
- ③モータが止まったらエアコックを開き、エアタンク内の圧縮空気を抜いてください。エアタンク内の圧力が約0.6MPaまで低下すると、モータが再起動します。（図2）
- ④モータの再起動を確認したら、エアコックを閉じ、電源スイッチをOFFにして、差し込みプラグを電源から抜いてください。
- ⑤エアコックを開いてエアタンク内の圧縮空気を全て抜いてください。



(図1)



(図2)

エアコックを開いても圧縮空気が出ない場合は、圧力計（レギュレータ）をご確認ください。圧力計が0になっていると、エアコックを開いても圧縮空気が出ません。レギュレータを右に回して圧力を上げてください。 **P21**

⚠ 警告

・圧縮空気を抜く時やエアコック全開時は、顔をエアコック付近に近づけないでください。圧縮空気の排出によって、失明や耳を傷める恐れがあります。
・運転時、運転直後の金属部は空気の圧縮熱で高温になっています。やけどの恐れがありますので絶対に素手で触らないでください。

⚠ 注意

・寒い場所に放置してあった場合、オイルが硬くなっている可能性があり、起動しづらくなる場合があります。本体を暖かい場所に移動し、温度慣らしを行ってください。

ご使用前に

※オイルの入れすぎにご注意ください。故障の原因になります。

- オイルの注入
- 温度慣らし
- オイルの役割

オイルの交換(つづき)

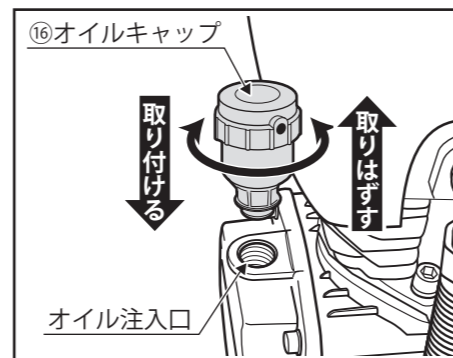
※各部の名称、番号はP7~9をご参照ください。

■ オイルの注入

- ① オイルキャップを外し、オイル注入口よりオイルを注入してください。

⚠ 注意

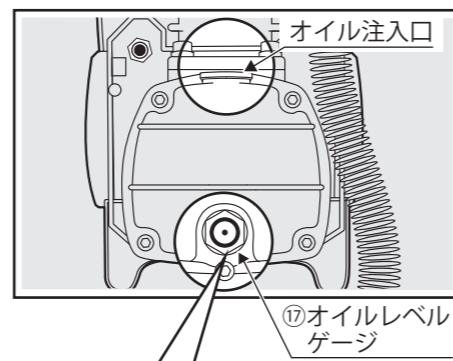
オイルは多少粘度があるため、適量付近になったら一気に注がず、注いだオイルが落ち着くのを待って様子を見ながら注入してください。入れすぎると、圧縮空気と一緒に吐出されることがあります。



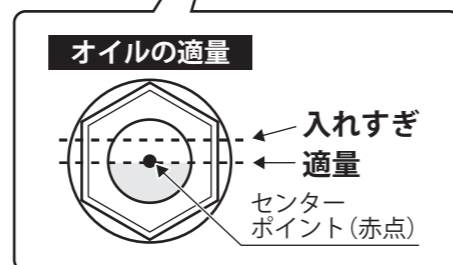
- ② オイルの量がオイルレベルゲージのセンターポイント(赤点)まで来たら油量は適量です。

⚠ 警告

オイルが適量でない状態で使用すると、本機故障の原因となりますので、絶対におやめください。



- ③ オイルを入れ終わったら、オイル注入口にオイルキャップを取り付けてください。



■ 温度慣らし

寒い場所に放置してあった場合、オイルが硬くなっている可能性があります。起動しづらくなる場合があります。本体を暖かい場所に移動し、温度慣らしを行ってください。

■ オイルの役割

- ・ 潤滑作用…油膜により金属(クランク回転軸など)の接触を防止します。
- ・ 密封作用…ピストンとシリンダーの間を埋めます。
- ・ 冷却作用…摩擦熱を吸収し、外部(金属部)に熱を伝え放出します。
- ・ 防錆作用
- ・ 清浄作用…汚れを洗い落とし油中に分散させ、堆積を防ぎます。

※寒冷地…粘度が上がり、オイルが固くなります。温度慣らしを行ってください。

※長期保管…オイルの劣化、変質が起こります。オイル交換を行ってください。 **P15-16**

※交換用オイルは、「SHELL エンジンオイル 5W-30」をお薦めします。

市販のコンプレッサオイル(粘度ISOVG68相当)の非溶剤性油もご使用になれます。(適正オイル量は約270ccです。)

※ご使用前には必ずエアタンク内の圧縮空気を全て抜いてください。

- エアタンク内のエア(圧縮空気)を抜く
- エアタンク内のドレン(水)を抜く

準備

※各部の名称、番号はP7~9をご参照ください。

■ エアタンク内のエア(圧縮空気)を抜く

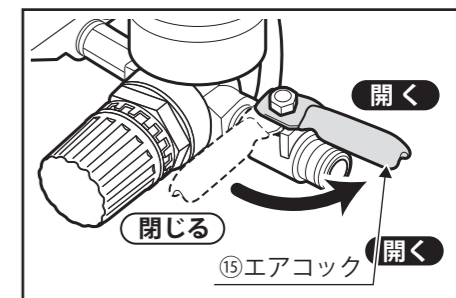
エアタンク内に圧縮空気が残っている場合がありますので、エアコックをゆっくり開いて圧縮空気を抜きます。

⚠ 警告

圧縮空気を抜く際は、顔をエアコック付近に近づけないでください。けがの恐れがあります。

⚠ 注意

エアコックから圧縮空気を抜く場合は、空気吐出口にワンタッチカプラソケットが付いていないかお確かめください。ワンタッチカプラソケットが付いていると、エアコックを開いても圧縮空気は出てきません。その場合は、ワンタッチカプラソケットを外してからエアコックより圧縮空気を抜いてください。



■ エアタンク内のドレン(水)を抜く

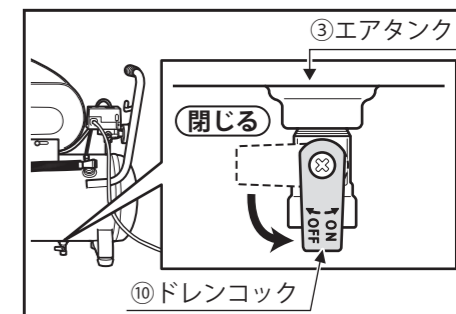
エアタンクの下部に付いているドレンコックのレバーを、ゆっくりと下へ回して開き、ドレンを抜いてください。

⚠ 警告

- ・ ドレンを抜く際は、顔をドレンコック付近に近づけないでください。けがの恐れがあります。
- ・ **ドレンを抜く前に、必ずエアコックを開きエアタンク内のエアを抜いてください。**エアが入っている状態でドレンを抜くと、事故やけがの恐れがあります。

⚠ 注意

- ・ 使用するとエアタンク内にはドレンが溜まります。使用後は必ずドレンを抜いてください。
- ・ 水などのドレンはドレンコックより出ます。ドレンにはタンク内のサビなども混ざっていますので、ドレンコックの下にトレイなどを置き、ドレン(水)抜きを行ってください。



ご使用前に

※搬送時の破損を避けるため、梱包時エアフィルタ(吸気口用)は取り外してあります。必ずエアフィルタ(吸気口用)差込口に取付けてからご使用ください。

■エアフィルタ(吸気口用)の取り付け

準備(つづき)

※各部の名称、番号はP7~9をご参照ください。

■エアフィルタ(吸気口用)の取り付け

※エアフィルタ(吸気口用)は、エアコンプレッサ内部へ空気を取り込む際に、空気中のゴミなどを削減します。
必ず取付けて使用してください。

付属品のエアフィルタ(吸気口用)を本体へ取り付けます。
エアフィルタ(吸気口用)のねじ部を、本体のエアフィルタ(吸気口用)差込口へ、右回しにねじ込み、取付けてください。

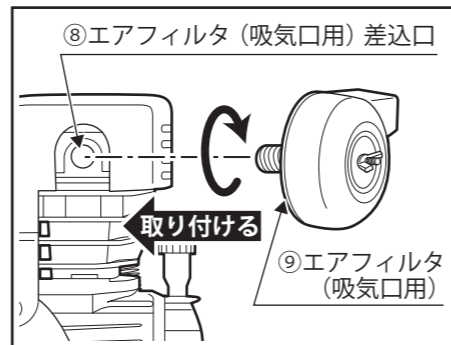
⚠注意

取り付ける際、エアフィルタ(吸気口用)には**パイプシール(シールテープ)を使用しないでください**。
使用中、空気と共にパイプシールの一部が吸い込まれて故障の原因となる恐れがあります。

※エアフィルタ(吸気口用)は常に清潔に保持してください。
汚れが著しいと、取り込める空気量が減少し、エアコンプレッサの能力が低下します。

●お手入れ方法 P26

●別売もございます P9



※オイルドレンボルトを回すためのスパナを別途ご用意ください。
※本機を運転中は絶対に、オイルキャップを外したりオイルを注入または交換しないでください。けがや事故、本体の破損、故障の原因になります。

■オイル交換の時期

■オイルの抜きかた

オイルの交換

※各部の名称、番号はP7~9をご参照ください。

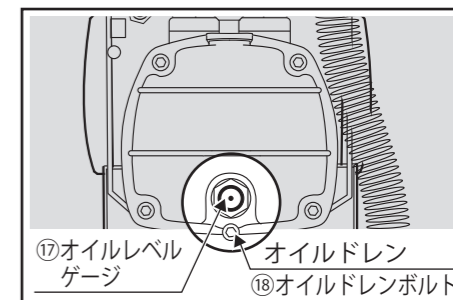
■オイル交換の時期

- ・初回のオイル交換は、約50時間の運転、または、使用してから1ヶ月以内の交換をお勧めします。(使用頻度により異なります。)
- ・通常約200時間の運転、または約3ヶ月使用毎に新しいオイルに交換してください。
- ・長期の保管はオイルの劣化、変質が起こります。定期的にオイル交換を行ってください。
- ・交換用オイルについては、寒冷地でも再起動しやすい「SHELL エンジンオイル 5W-30」をご使用ください。市販のコンプレッサオイル(粘度ISOVG68相当)の非溶剤性油もご使用になれます。(適正オイル量は約270ccです。)

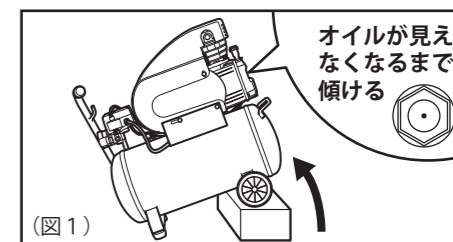
⚠注意 汚れた場合は早めに交換をしてください。

■オイルの抜きかた

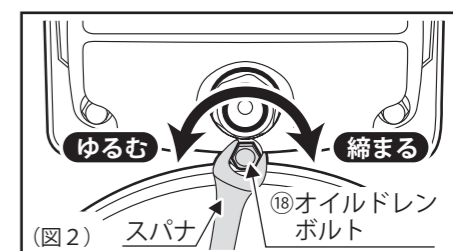
オイルはオイルドレンより流れ出ますので、トレイのような物を下に当て、受け皿としてご使用ください。



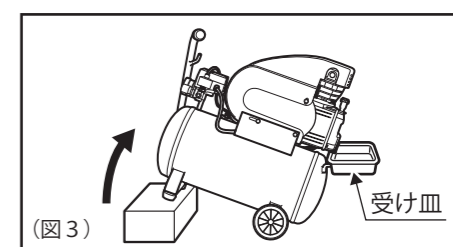
①オイルレベルゲージからオイルが見えなくなるまで本体を傾けます。(図1)



②本体を傾けた状態のまま、オイルドレンボルトをスパナなどで外してください。(図2)



③受け皿をオイルドレンに当てながら、オイルドレン側に本体を傾けてオイルを全て抜き(図3)、オイルドレンボルトを取り付けてください。



⚠注意

オイルドレンボルトは無理に締め付けるとねじ山の破損や油漏れの原因となります。きつくなったら締めるのをやめ、無理に締め付けることは絶対にしないでください。